

平成 29 年度 東京都内湾水生生物調査 4 月稚魚調査 速報

●実施状況

平成 29 年 4 月 27 日に稚魚調査を実施した。天気は曇りで、気温 15.3~17.5℃、北北東のち東北東の風 2.0~4.8m で、北寄りの風が一時やや強かった。当日は大潮で、5 時 5 分に満潮、11 時 35 分に干潮だった(東京都港湾局のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

各調査地点ではいずれも、ボラの稚魚や、ビリンゴ等のハゼ科魚類の稚魚が確認された。また、春季に河川を遡上するアユの稚魚も、お台場海浜公園と葛西人工渚の 2 地点で確認された。

2017/4/27	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	9 : 15~10 : 15	11 : 05~12 : 05	13 : 30~14 : 45
水温 (°C)	16.9	18.3	19.4
塩分	24.0	23.0	14.3
透視度 (cm)	100 以上	35	50
DO (mg/L)	8.00	6.82	7.97
DO 飽和度 (%)	95.2	83.8	92.5
波浪 (m)	0.1 未満	0.2	0.1
pH	7.9	7.7	7.8
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考			

注) 塩分、DO、pH の値は計器測定値。

●主な出現種等(速報なので、種名等は未確定です)

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	マハゼ (m)	ビリンゴ (m)	ビリンゴ (m)
	アユ (+)	ボラ (+)	スズキ (m)
	ボラ (+)	ウキゴリ属 (+)	ボラ (c)
	ウキゴリ属 (+)	ヒメハゼ (+)	ウキゴリ属 (+)
	ビリンゴ (r)	マゴチ (r)	アユ (r)
魚類以外	ニホンイサザアミ (G)	ニホンイサザアミ (m)	ニホンイサザアミ (G)
	エビジャコ属 (c)	エビジャコ属 (+)	エビジャコ属 (m)
備考		イシガレイ	エドハゼ、イシガレイ ハマグリの貝殻が散在

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

お台場海浜公園 採取試料



調査地点の様子



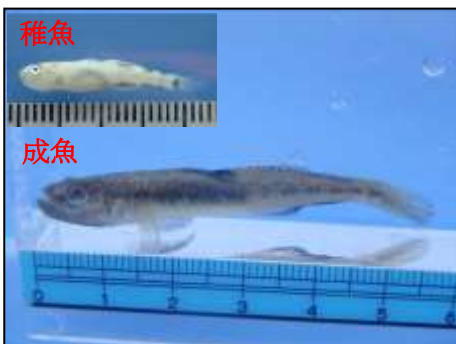
地曳網の様子



白くて大きなものがボラ、小さなものがハゼ科稚魚。その他はニホンイサザアミ。

地曳網では、マハゼ、アユ、ボラ、ウキゴリ属、ビリンゴ、ヒメハゼ等が捕獲された。
また魚類以外では、ニホンイサザアミ、エビジャコ属、イッカククモガニが捕獲された。

捕獲された主な稚魚



ビリンゴ
東京湾干潟の代表的な小型ハゼ。お台場海浜公園では、成魚と稚魚が捕獲され、産卵地となっていると思われる。



マハゼ
多くの稚魚が捕獲された。サイズは、大小の差が大きかった。これは、今年の産卵期が長期に渡った為と推測される。



アユ
葛西人工渚と比べ、多く捕獲された。アユは孵化後、海に降って春の川への遡上まで海で生活をする。



スズキ
葛西人工渚より、捕獲数は少なく、サイズも小さかった。捕獲された稚魚は、産卵期が遅かったため、小さかったと思われる。

城南大橋 採取試料



調査地点の様子



地曳網の様子



地曳網では、ビリンゴ、ボラ、ヒメハゼ、ウキゴリ属、イシガレイ、マゴチ、チチブ等が捕獲された。

また魚類以外では、ニホンイサザアミ、エビジャコ属、ガザミ、ニホンスナモグリ、シラタエビ、アサリが捕獲された。

稚魚とともに、多量の植物片(落ち葉)や、ゴミ(ビニール片やたばこの吸い殻)が混入した。

捕獲された主な稚魚

	<p>イシガレイ 例年春季に、東京湾の干潟で、稚魚が多く出現する。成長とともに干潟を離れ、砂地の深場へ移動する。</p>		<p>チチブ 近種で、ヌマチチブがいるが、チチブの方が、塩分濃度が高い場所にも、生息することが出来る。</p>
	<p>マゴチ マゴチの産卵期は初夏なので、大きさから判断すると、昨年成長が悪かった稚魚が、干潟に残ったと思われる。</p>		<p>ウキゴリ属 出現するウキゴリの仲間は、ウキゴリとスミウキゴリの2種だが、稚魚では区別が難しい。成長すると、河川に遡上する。</p>

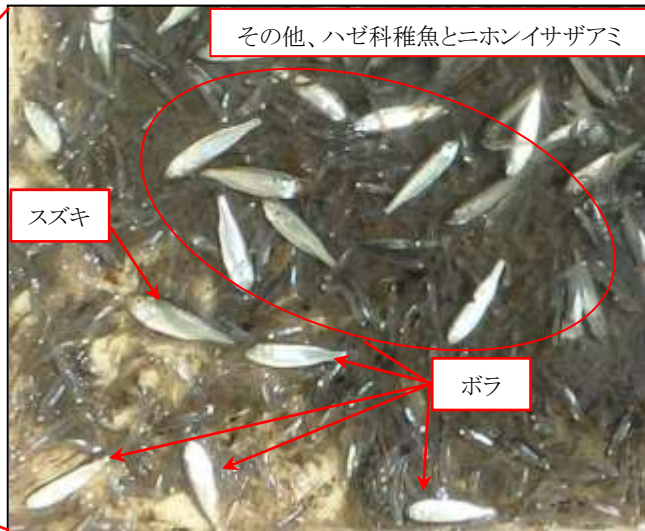
葛西人工渚 採取試料



調査地点の様子



地曳網の様子



地曳網では、スズキ、ピリング、ボラ、ウキゴリ属、アユ、エドハゼ、イシガレイ等が捕獲された。

また魚類以外では、ニホンイサザアミ、エビジャコ属、が捕獲された。

捕獲された主な稚魚



エドハゼ

東京都で絶滅危惧Ⅱ類に選定されている小型ハゼ。例年、葛西人工渚では、捕獲されるため、繁殖地となっていると思われる。



ボラ

各地点で捕獲されたが、葛西人工渚で最も多く捕獲された。捕獲量の差は、干潟の面積が関係していると思われる。



ヒメハゼ

東京湾干潟の代表的な小型ハゼ。マハゼと違い、周年を干潟で過ごす。産卵期は夏季である。



スズキ

お台場海浜公園よりも、多くの個体が捕獲された。またサイズも、大きかった。稚魚は河川の淡水域まで遡上することがある。